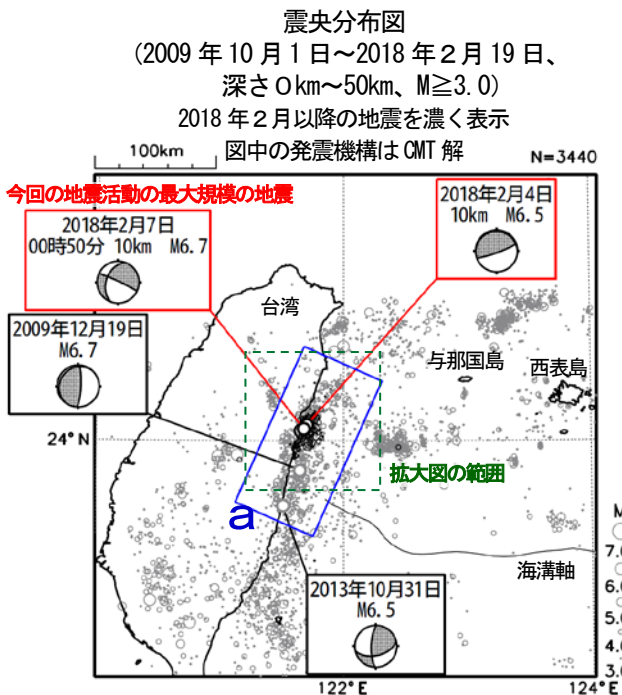
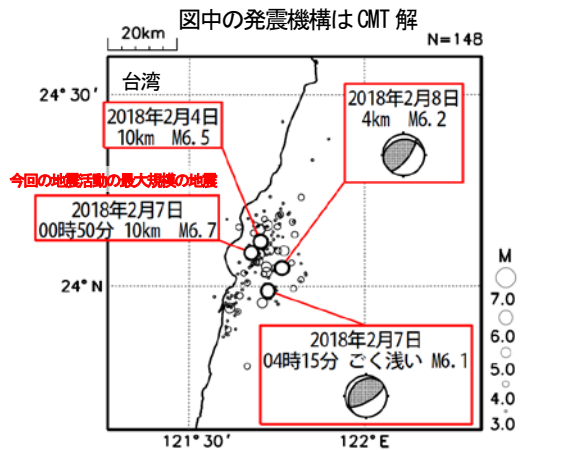


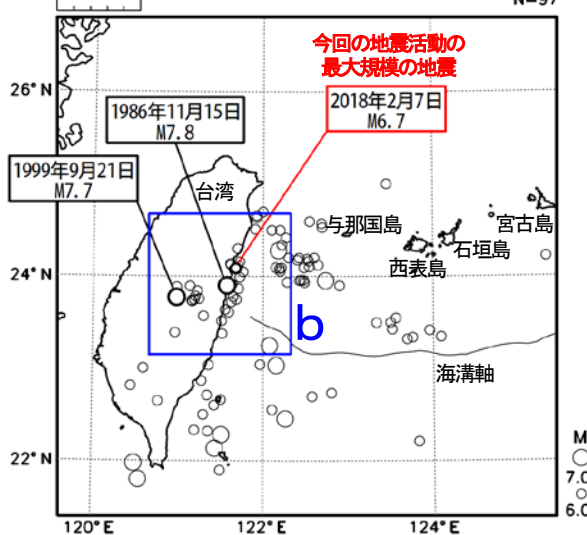
2月4日からの台湾付近の地震活動



震央付近の拡大図
(2018年2月4日～2018年2月19日、深さ0km～50km、 $M \geq 3.0$)
図中の発震機構はCMT解 N=148



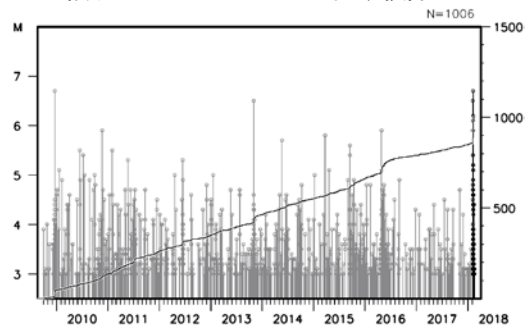
震央分布図
(1960年1月1日～2018年2月19日、
深さ0km～100km、 $M \geq 6.0$) N=97



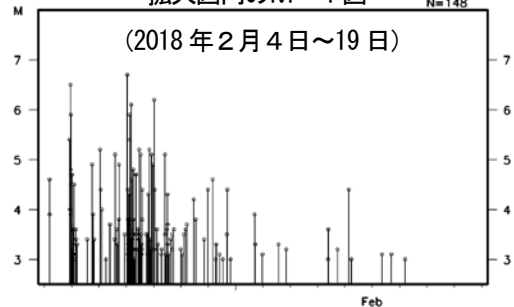
2018年2月4日頃から台湾付近で地震活動が活発になり、4日22時56分に台湾付近の深さ10kmでM6.5の地震（日本国内で最大震度2）が発生した。この地震の震央付近では、地震活動が活発な状態で推移しており、約2日後の7日00時50分には深さ10kmでM6.7の地震（日本国内で最大震度2）が発生した。これらの地震を含め、19日までにM6.0以上の地震が4回発生している。4日22時56分の地震と7日00時50分の地震の発震機構（CMT解）は、それぞれ北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型、南北方向に圧力軸を持つ型であった。

2009年10月以降の活動をみると、今回の地震活動周辺（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生している。

領域a内のM-T図及び回数積算図

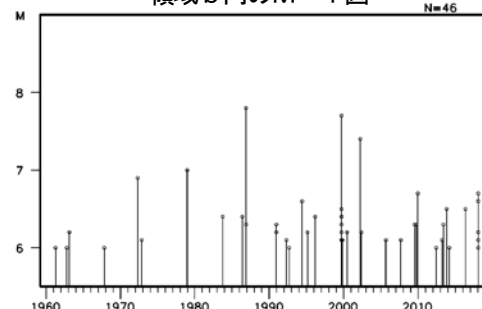


拡大図内のM-T図



1960年1月以降の活動をみると、今回の地震活動周辺（領域b）では、1986年11月15日にM7.8の地震（日本国内で最大震度3）が発生し、台湾で死者13人、負傷者45人の被害が生じ、宮古島平良で30cmの津波を観測した（津波の高さは「験震時報第55巻」による）。また、1999年9月21日にM7.7の集集地震（日本国内で最大震度2）が発生し、台湾では死者2,413人、負傷者8,700人の被害が生じた。

領域b内のM-T図



※本資料中、2009年9月までの震源要素は米国地質調査所（USGS）による。2009年10月以降の震源要素は気象庁による。被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。